

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第30週 (7/23-7/29) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		30週	29週	28週	27週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	16	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ	27	27	24	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	7/23-7/29	7/16-7/22	7/9-7/15	7/2-7/8	7/16-7/22
			30週	29週	28週	27週	29週
小児科	RSウイルス感染症	○	21 1.17	19 1.06	13 0.81	6 0.33	100 0.74
	咽頭結膜熱	○	23 1.28	12 0.67	11 0.69	8 0.44	139 1.03
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		42 2.33	33 1.83	44 2.75	51 2.83	268 1.99
	感染性胃腸炎		88 4.89	58 3.22	62 3.88	83 4.61	383 2.84
	水痘		1 0.06	4 0.22	5 0.31	10 0.56	40 0.30
	手足口病		20 1.11	20 1.11	4 0.25	26 1.44	163 1.21
	伝染性紅斑		1 0.06	2 0.11	3 0.19	2 0.11	43 0.32
	突発性発しん		6 0.33	6 0.33	3 0.19	15 0.83	46 0.34
	ヘルパンギーナ	○	75 4.17	61 3.39	34 2.13	33 1.83	448 3.32
	流行性耳下腺炎		2 0.11	3 0.17	4 0.25	1 0.06	18 0.13
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.07	5 0.02
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	○	6 1.20	5 1.00	4 0.80	6 1.20	45 1.29
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(22件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	70歳代	画像診断等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出等
結核	女性	70歳代	画像診断等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
腸管出血性大腸菌感染症	女性	30歳代	病原菌の分離同定及びベロ毒素の確認	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
E型肝炎	男性	80歳代	血清IgA抗体の検出	百日咳	女性	30歳代	抗体の検出
侵襲性肺炎球菌感染症	男性	80歳代	病原体の分離・同定等	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	血清IgM抗体の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	40歳代	抗体の検出	風しん	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出

・第30週は、結核3件(106)、腸管出血性大腸菌感染症1(8)、E型肝炎1(5)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(18)、百日咳10件(78)、風しん6件(6)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第30週のコメント

＜RSウイルス感染症＞前週より増加し1.17となった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。
 ＜咽頭結膜熱＞前週より増加し1.28となった。過去10年の同時期と比べると多い。
 ＜ヘルパンギーナ＞前週より増加し4.17となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。
 ＜流行性角結膜炎＞前週より増加し1.20となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜風しん＞

第30週に、市内の複数個所から風しんの発生が6件報告されました。全て男性で、年齢は40歳代が2名、50歳代が3名、60歳代が1名で、居住区は中央区が1名、稲毛区が1名、緑区が3名の他、市外が1名です。初診日は7/19～7/23となっており、7/19が1名、7/20が2名、7/23が3名です。6名の共通事項はないことから、市内にウイルスが拡散している可能性が考えられます。

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。

風しんウイルスの感染経路は、飛沫感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播します。

症状は不顕性感染（感染しても症状が出ない）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあることから、決して軽視はできない疾患です。最も有効な予防方法は、予防接種を受けることです。

風しんの最大の問題は、風しんに感受性のある妊娠20週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、眼や心臓、耳等に障害を持つ子ども（先天性風しん症候群）を出生する可能性があることです。妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、特に流行地域においては、抗体を持たない又は低い抗体価の妊婦は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えるようにしてください。また、妊婦の周りにいる人（妊婦の夫、子ども、その他の同居家族等）は、風しんを発症しないよう予防に努めて下さい。

＜参考＞

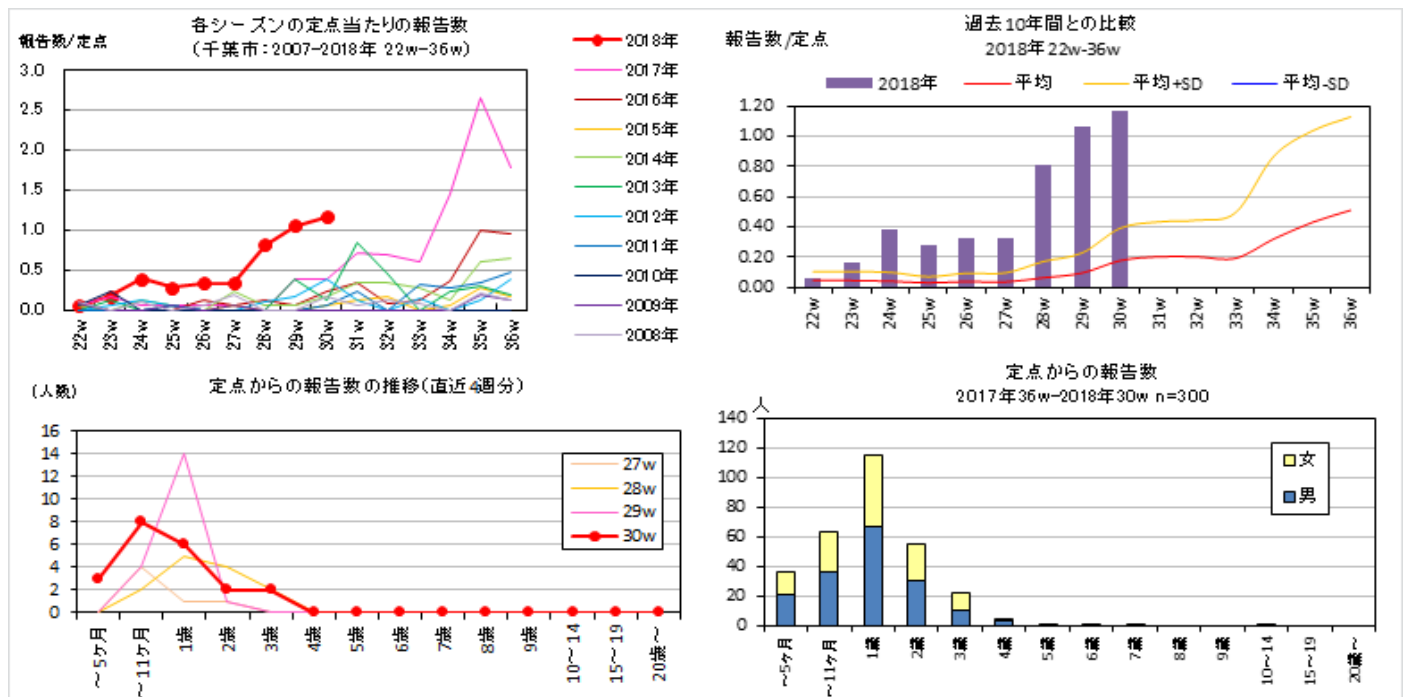
【厚生労働省：風しんについて】

（インターネットで「風しん」で検索すると最初にリンクが出ます）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

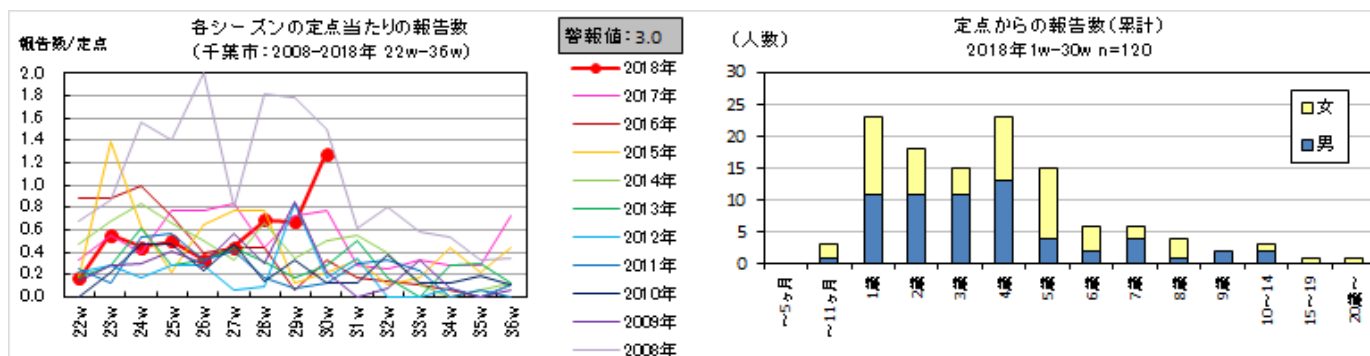
＜RSウイルス感染症＞

全国レベルは第12週から過去10年の同時期に比べ最多の状態推移しており、第29週も同様となっています。都道府県別では沖縄県、宮崎県、徳島県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第30週は前週より増加し1.17となり、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、緑区（2.75/定点）で最多で、同区の0～5か月と1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第30週までの累積報告数（n=300）によると、性別では男性が56.0%（168名）、女性が44.0%（132名）で、年齢階級別では1歳（38.3%：115名）、6～11か月（21.3%：64名）、2歳（18.3%：55名）の順で多くなっています。



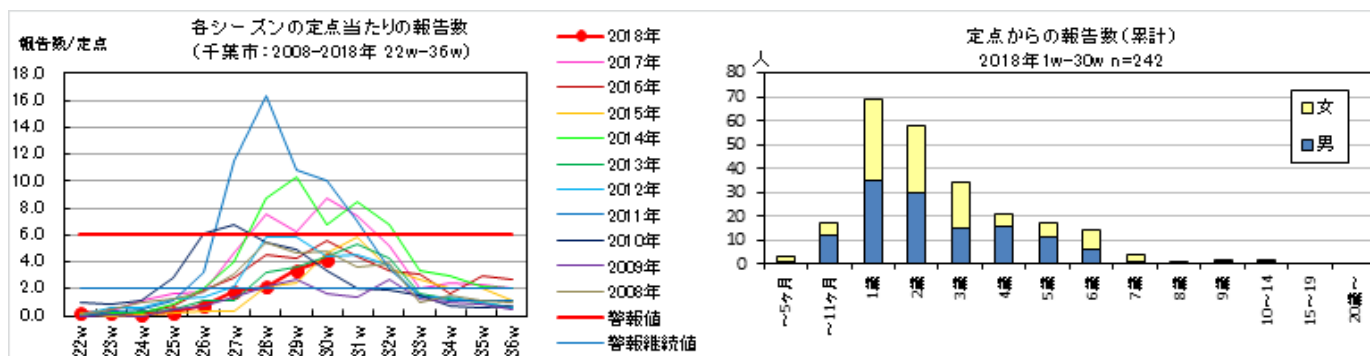
<咽頭結膜熱>

全国レベルの第29週は、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では鹿児島県、福島県、千葉県及び沖縄県の順で多く報告されています。千葉市の第30週は前週より増加し1.67となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は緑区(4.0/定点)で最も多く、同区の4歳で多く発生報告がありました。2018年第1週から第30週までの累積報告数(n=120)によると、性別では男性が51.7%(62名)、女性が48.3%(58名)で、年齢階級別では1歳及び4歳(共に19.2%:23名)、2歳(15.0%:18名)の順で多くなっています。



<ヘルパンギーナ>

全国レベルの第29週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では山形県、静岡県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第30週は前週より増加し4.17となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況は稲毛区(13.3/定点)で流行発生警戒開始基準値(6.0/定点)を上回り最も多く、稲毛区で2歳及び3歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第30週までの累積報告数(n=242)によると、性別では男性が53.3%(129名)、女性が46.7%(113名)で、年齢階級別では1歳(28.5%:69名)、2歳(24.0%:58名)、3歳(14.0%:34名)の順で多くなっています。



<流行性角結膜炎>

全国レベルは第13週から連続して過去10年の同時期と比べるとほぼ最多の状態が推移しており、第29週も同様となっています。都道府県別では沖縄県、熊本県、愛媛県の順で多く報告されています。千葉市の第30週は前週より増加し1.2となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は若葉区(4.0/定点)で最も多く、同区の4歳、6歳、40歳代及び50歳代で発生報告がありました。2018年第1週から第30週までの累積報告数(n=72)によると、性別では男性が51.4%(37名)、女性が48.6%(35名)で、年齢階級別では40歳代(19.4%:14名)、30歳代(13.9%:10名)、50歳代(11.1%:8名)の順で多くなっています。

